令 和 2 年 度　自 己 評 価 表（中間評価）

鳥取県立日野高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	これからの社会の中でたくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る。

今年度の重点目標	・主体的な学びの推進 ・規範意識と多様性の受容力の向上 ・地域貢献力の育成

年度当初					評価結果 (9)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況　（　）は前年9月末	評価	改善方策
1 学びの質的改善	学びに向かう意欲・意識の醸成	○「学びのルール」を順守している生徒はアンケート結果では90%となっており、目標に充分達していると思われる。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒は4名。（R1年12月末時点） ○家庭学習調査の結果を受けて面談をし、振り返りを行った。また授業への取り組み姿勢に関するアンケートでは、1年次生94%、2年次生87%、3年次生91%が肯定的な回答をした。 ○授業内容、授業の進め方に対する生徒の満足度は80．3%。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が76%。 ○タブレットを活用した授業を行った教員は48%であった。	○「学びのルール」を順守している生徒が90%以上。 ○授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ5人以下。 ○生徒の家庭学習実態を把握し、学習指導の改善に活かし、自らの授業への取組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が90%以上。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が80%以上。 ○タブレットを活用した授業を実施している教員が60%以上。	○「学びのルール」を活用した指導を継続して行う。「学びのルール」から月毎の重点目標を設定し、意識付け及び定着を図る。 ○年度当初に教職員にカード指導の徹底を図るとともに、職員研修を実施し、職員間で差のない適切なカード指導の運用に努める。 ○授業の工夫や課題の出題、家庭学習調査の結果を担任面談で振り返ること等を行い、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。 ○進路ガイダンスや面談等のキャリアカウンセリングの充実を図る。 ○入試制度への対応やポートフォリオの蓄積方法について検討する。 ○授業におけるICT活用事例の職員研修を行い、質的改善を促進する。	○「学びのルール」を順守している生徒は、アンケート結果では 94.2%となっており、目標に充分達していると思われる。 ○9月末日現在、授業関係で指導改善カードを受けた生徒は1人であった(R1:3名)。 ○家庭学習調査の結果を受けて面談をし、振り返りを行った。また授業への取り組み姿勢に関するアンケートでは、1年次生98．6%、2年次生90．8%、3年次生94．2%が肯定的な回答をした。 ○本校の進路指導に肯定的な回答をした生徒は79．1%(R1:80%) ○日野高版の「ふるさとキャリア・パスポート」を作成し、進路用ファイルを用いたポートフォリオの蓄積を始めた。 ○タブレットを授業で活用している教員は45%。台風による臨時休業時に、オンラインによるSHR・授業を行ったが、ほぼすべての担当教員は対応出来た。	A	○「学びのルール」について HR 等で継続的に意識付けをし、更なる定着を図る。 ○家庭学習の習慣化を促す方策を検討し、各教科・HR 等で指導を行う。 ○進路LHRやSHRなどで入試制度の周知やオープンキャンパスの案内など進路意識の高揚を目指す場面を増やす。 ○休校時、または普段の授業における ICT 活用事例の職員研修を継続的に行い、質的改善を促進する。
	協同学習の実践	○年2回の授業公開週間に協同学習に関する授業研究会を実施。84%の教員が「授業の質的改善に取り組んでいる」と回答した。 ○公開授業の参観シートの利用枚数は15枚程度。 ○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」で協同的な学びの時間を多く設定した。	○授業改善を日常的なものとし、授業の質的改善に取り組んでいると回答する教員が100%。 ○公開授業週間の参観シートの利用枚数が延べ50枚以上。 ○「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、「総合的な学習の時間」の授業において生徒が協同して学ぶことができるようになる。	○協同学習注力授業科目の決定と、授業プランシートを活用した授業公開を継続して行い、取り組みを日常化し教員間の協同学習の視点の共有化と授業改善に係る意欲の向上を図る。 ○公開授業の実施を促すとともに、多くの教員に参観するよう促す。 ○公開授業週間での参観シート活用を促進し、授業のさらなる質的改善へつなげる。 ○ポートフォリオを活用した学習評価を検討する。	○授業の質的改善に取り組んでいると回答する教員が84%(R1:80%)。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で公開授業は11月に実施予定である。 ○「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」で協同的な学びの時間を多く設定している。	B	○協同学習等の取り組みを推進しているが、推進の仕方を工夫し、負担感を軽減する。 ○11月の授業公開週間等に公開授業の実施を促すと共に、多くの教員に参観するよう促す。
2 社会の中で生き抜く力の育成	人と関わる力の伸長	○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒は81．5%(H30:76．1%)。 ○教科学習や総合的な学習の時間、LHRでの活動において、自己開示や他者理解を促す機会を設けることにより、自己開示や協同・協調する姿勢は見られるようになってきたが、まだ十分とは言えない状況であり、他者との関わりにおいては課題がある。 ○他者を傷つける言動、SNSへの書き込みで指導を受けた生徒は7名。（R1年12月末時点）	○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が80%以上。 ○学校生活や授業を通して、適切な自己開示のもとに多様な個性を認め合い、同学年・他学年の生徒とコミュニケーションを取り、他者と協同・協調することができるようになる。 ○他者を傷付ける、いじめ、SNSへの書込み、行き過ぎた行為により指導を受けた生徒が延べ5人以下。	○授業や特別活動において、適切な自己開示ができる仕掛けや場面を設定し、他者理解・自己理解、コミュニケーション力の育成を図る。 ○いじめは絶対に許さないという指導を粘り強く行うとともに、いじめアンケートやこころのメッセージ及び生徒の普段の様子を把握し、いじめの早期発見や生徒の変化を注視し、組織的かつ迅速な対応を行う。 ○他者との関わりの大切さやその喜びを学べるよう、各教育活動を充実させる。 ○各学期毎に学年集会を開催し、学校生活の諸課題に対する意識の高揚を図る。	○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒は82．7%(R1:83．5%)。 ○総合的な学習の時間やLHR活動において、他者と協同・協調する姿勢が見られるようになったが、反面、人間関係における不安や悩みを抱える生徒もみられる。 ○LINEによるトラブル1件(8名指導)、行き過ぎた行為による指導1件(1名指導)の2件であった。(9月末日現在)	C	○引き続き授業や特別活動において、協同・協調を行う活動や個々が役割を果たしていく活動の仕掛けや場面を設定し、適宜振り返りを行わせ、他者理解・自己理解・コミュニケーション力の育成を図る。 ○引き続きいじめアンケート、心のもようメッセージを実施や日頃の声かけを行い、いじめや人間関係トラブル、生徒の悩みや不安の早期発見に努め、迅速な対応を行う。
	感情・行動をコントロールする力の増大	○自尊感情や自己有用感の低い生徒が多い。自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒は51%。 ○暴力行為、暴言の指導件数が4件(R1年12月末時点)。 ○個々の生徒の特性、課題を把握し、ケース会議等の開催や、教育相談員・SSW等と連携することで、個に応じた支援を行っている。 ○生徒の学校満足度に関する肯定的な回答は85．3%。 ○朝食を全く摂らない生徒が7．9%。	○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をする生徒が55%以上。 ○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が3件以下。 ○生徒は場に応じて感情や行動を自制でき、安心して学校生活を送ることができる。 ○生徒の学校満足度が85%以上。 ○朝食を全く摂らない生徒が5%未満。	○人権教育LHR等の特別活動や進路指導を通して、感情や行動をコントロールする力の育成や、規範意識の醸成を図る。また、個別対応も行いながら、適宜LHR等を用いて社会性の育成を促進する。 ○地域貢献を目的とした生徒の活動を積極的に報道提供し、生徒の自尊感情や達成感を醸成する。 ○ストレスマネジメント(全学年対象)を実施する。 ○「食事についてのアンケート」を実施し、結果を周知し、啓発を行う。対象生徒への個別指導を行う。	○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をする生徒は47%(R1:47%)。 ○9月末現在、暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数は0である(R1:4件)。 ○ストレスマネジメントを1年次生は6月、2・3年次生は9月に実施した。 ○生徒の学校満足度に関する肯定的な回答は84．2%(R1:81%)。 ○朝食を全く摂らない生徒が9%(R1:7．9%)であり、1年次生対象に食育講演会を行った。また、保健室で対象生徒への個別指導を行っている。	C	○人権教育LHR等の特別活動や進路指導を通して、感情や行動をコントロールする力の育成や、規範意識の醸成を図る。また、個別対応も行いながら、適宜LHR等を用いて社会性の育成を促進する。 ○地域貢献を目的とした生徒の活動を積極的に報道等提供し、生徒の自尊感情や達成感、自己有用感を醸成する。 ○食育指導は、保健便りや保健室掲示板、簡単朝食講習会(家庭クラブ)、食育映画上映等で啓発活動を継続する。また、個別指導を継続して実施する。
3 地域と連携した教育の推進	地域に貢献する意欲の醸成	○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒は91%。 ○「課題研究」では地域に還元できるテーマ設定や地域での活動も増え、高評価を得た。 ○地域の人材・資源を活用した授業を行い、地域連携活動の充実を図っている。 ○ごみ出さないDayとゴミ減量チャレンジを実施。	○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答する生徒が95%以上。 ○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 ○生徒が部活動、生徒会活動、学校行事等で、地域貢献を発案できるようになる。 ○校内および地域環境への意識が高まっている。	○「産業社会と人間」、「課題研究」等において、地域資源や地域の人材を活かした学習を今後も継続して実施し、地域の教育拠点として地域貢献力の育成を引き続き図っていく。 ○生徒会を中心に生徒が主体的に活動できる地域貢献を考案させる。 ○ゴミ出さないDay、ゴミ減量チャレンジを実施する。	○新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中、「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒が 88.8%と高評価が継続している。「産業社会と人間」「課題研究」等の生徒の取り組みも概ね良好である。 ○生徒会執行部を中心に、学校祭の企画運営に積極的に取り組む姿勢がみられる ○環境教育LHRを実施し、ごみの分別方法、ごみ減量などの取り組みについて周知した。 ○ゴミ減量チャレンジは年間を通じて行っており、学期末に表彰を行っている。	B	○地域の資源及び人材等の活用をさらに高め、地域との連携を強化し、地域貢献力の育成の充実を図る ○ゴミ減量チャレンジを継続し、ゴミ出さないDAYは11月に実施する予定。 ○TEAS通信等で環境意識の啓発活動を継続する。
4 業務改善の取組	勤務時間管理及び働き方改革	○業務の整理、見直しを随時行い、業務効率の向上を図っているが、業務の多様化・複雑化及び事業等実施後の調査・照会等の多さ、さらには小規模校におけるマンパワーの不足もあり、常に業務負担・負担感は大きい。 ○R1年における主な業務削減。 勤務時間の割振り変更等の適正な運用。委員会等の時程内開催及び6月職員会議の不開催。体験的学習活動等休業日の設定。8月に対外業務停止日の設定。定期考査(2回)に週休日を挟む日程設定。部活動に係る方針の策定。「鵜の池マラソン」、「人間力アップ！合宿」等の学校独自事業の見直し。	○時間外業務の縮減によるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の促進。 ○業務改善に取り組んだ結果、教材研究の時間が確保され、授業の質的改善が図られている。	○各分掌における業務をリスト化し、業務の見直しを行う。 ○組織的な業務遂行を充実させ、さらなる業務の平準化を図り、個々の負担の軽減を図り、校務運営の効率化を推進する。 ○会議等の効率化や委員会等の時程内開催を行い、時間外業務の削減を図る。 ○部活動の適切な指導と運営を行う。 ○学校独自事業や高等学校課事業の見直し。 ○学校ルールブックの作成。	○勤務時間及び職員定数に対して、業務量が生徒指導やオンライン授業準備などの感染症対応等のため過大傾向となっており、時間外業務が発生している。 ○6月職員会議の不開催。 ○「帰らーDAY」、「リフレッ週」の設定日の定例化と同日の〆一会議デーの設定。 ○8月対外業務停止日の設定。 ○勤務時間の割振り変更や変形勤務制度等の運用。	B	○適確な業務の遂行と業務の平準化を行い、組織的な業務遂行を図り、個々の業務負担の軽減、時間外業務の削減を図る。 ○担任業務や分掌業務を整理し、業務の見直しを行う。 ○体験的学習活動等休業日を11月に設定する。

評価基準　A：十分達成　B：概ね達成　C:変化の兆し　D：まだ不十分　E：目標・方策の見直

〔100%〕　〔80%程度〕　〔60%程度〕　〔40%程度〕　〔30%以下〕